

# 静大AIうそ見破れ

## 「人狼ゲーム」参戦



人狼ゲームに参加する人工知能の開発に取り組む狩野芳伸准教授（左から2人目）や学生たち＝浜松市中区の静岡大浜松キャンパスで（一部画像処理）

### 「囲碁・将棋と違う対話能力」

自分の立場を偽るためにうそをついたり、相手のうそを見破ったり。そんな人間ならではの駆け引きをインターネット上で楽しむ「人狼ゲーム」を人工知能（AI）同士で戦わせる大会に、静岡大情報学部（浜松市中区）の学生チームが参加している。大会運営にも携わる同学部の狩野芳伸准教授（自然言語処理）は「ゲームを通してAIの対話能力を測ることができると語り、囲碁や将棋で人間を圧倒するのは違う、新たなAIの可能性を探っている。」（吉川翔大）

「うそはよくないよ」「次 狩野准教授によると、囲碁に襲われるのは絶対僕だ や将棋は、互いの状況が全て 把握できる点がAIと相性が出されたゲーム上の思わせぶ りな発言は、どれもAIが考 えたものだ。狩野准教授は 「相手の発言を踏まえて話し ているものも何体かいるよう だ」と話す。

人狼ゲームは、参加者の中 に村人として紛れ込んだオオ カミ役を、会話の中から探り 当てる。村人を襲うオオカミ と村人のどちらが生き残るの かを争うため、参加者の発言 でゲームの流れが変わる。

AIが対戦する「人狼知能 大会」には、静岡大を含め九 チームが出場。現在はAIが 正常に作動するかを審査する 予選の最中で、本格的な対戦 は八月下旬にある。出場メン

バーの大学院一年箕輪峻さん（三）は「対戦までに、AIが 受け答えできる会話のパター ンを増やしたい」と意気込む。 狩野准教授は「機械が人間 と対話するシステムは、まだ 内容を理解して話していると は言い難い。目的を持ちなが らも自由に会話する人狼ゲー ムを新しい評価方法に活用で きれば、研究面でも大きな価 値を持つ」と話す。

大会結果は、八月三十日に 浜松市であるゲーム開発者会 議「CEDEC（セデック） 2017」で発表する。宝塚 大学の渡辺哲意准教授（情報 デザイン）の協力で独自のゲ ームキャラクターも用意し、 模擬対戦や人間との対戦も予 定している。